

都道府県名： 長野県	市町村名： 辰野町
<p>1. 活動名 里山整備と里山の資源活用</p>	
<p>2. 取組の背景、目的 以前は、薪取り等で地域の住民が山に入り、森林整備も当たり前のように行われていたが、戦後の燃料革命後、里山が放置され、荒れほうだいとなっていた。 この状況を何とかして改善し、山が再び地域住民の生活の場となるように森林整備と森林資源の活用、後継者の育成を目的に活動を始めた。</p>	
<p>3. 実施主体 杣道の会（構成員：11名）</p>	
<p>4. 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 里山林の所有者の集約化。</li> <li>・ 「丁寧」かつ「搬出」にこだわった森林整備（除伐・間伐）。</li> <li>・ 森林整備により伐採した材を利用した炭焼き。</li> <li>・ 次世代を担う、小・中・高校生を対象とした林業体験学習を指導。</li> </ul>	
<p>5. 支援事業 みんなで進める里山整備事業</p>	
<p>6. 取組等についての成果や課題</p> <p>成果：・ 森林整備は、「丁寧」な実施にこだわって実施してきた結果、口コミで実施依頼を受けるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林整備で伐採した材を利用した炭焼きも地域住民に口コミで周知され、焼いた炭の「量り売り」を行う時は即完売し、次の窯出しの時期を聞かれる状況となり地域住民の生活のサイクルに組み込まれるようになった。</li> <li>・ 森林整備を実施した森林が干渉帯となりイノシシに代表される野生動物の農作物への被害が激減した。</li> <li>・ 平成21年10月4日に全国育樹活動コンクール国土緑化推進機構理事長賞を受賞した。</li> </ul> <p>課題：・ 平成24年度から森林整備の政策が大きく変わり、計画的な集約化による大面積の搬出間伐の実施が主となり、大面積の集約化と搬出間伐を行えない組織は、補助金を得ることができなくなった。里山林は1人の所有者の所有面積も小さく、植栽樹種も多様なので、集約化して、効率よく搬出できる場所は極めて少なく、せっかく地域住民にも周知され、進めてきた森林整備ができなくなってしまい、地域住民の関心が里山から離れてしまい里山が以前のように荒れてしまい、イノシシ等の野生動物の被害も以前のように増加し、その対策に膨大な費用が掛かるという以前のような悪循環になってしまうのではないかと心を痛めている。</p>	



#### ・森林整備前の状況

里山は所有面積の小さい個人所有者が多いため森林整備が行なわれず、雪の多い年に折れたり、倒れた木がそのまま放置されていることが多い。森林に人間があまり入らないことと藪となって動物が未を隠すことができるため、隣接する田畑、果樹園等が獣害に会うことも多く地域住民の頭を悩ませている。



#### ・森林整備後の状況

間伐材は搬出が原則、枝等は林内に集積する。搬出材は、管内の市場に出したり、所有者が薪として利用するなどするため、林内はきれいになり、次の間伐の支障となることがほとんどない。



#### ・森林整備で伐採した木を利用した炭焼き

広葉樹林を整備した時は、伐採した材を炭焼きの原木として利用する。炭は計り売りで希望者に提供するが、活動が口コミで広がり、販売が始まるとすぐに完売してしまう。



#### ・森林整備体験学習

小中高校生を対象とした森林整備の体験学習も実施している。立木伐採、下刈り体験の他に現在炭焼きを限られた時間の中でどう体験してもらうかと思案中のこと。